令和７年度

宜野湾市の教育

野嵩スディバナビラ

市章

市章は『ギノ』を図案化したもので
「ギ」で躍進の翼を形どり、円で湾を表わし、
協力の輪と平和を表わす。
1967(昭和 42)年 6 月制定

健康都市宣言

宜野湾市の全市民が明るく、美しく、豊かな環境の中で心身ともに健やかな
合理的生活がいとなめる健康都市建設に市民の総力を結集し、
その推進をはかるため宜野湾市を健康都市とすることを宣言する。

1964(昭和 39)年 7 月 1 日

健康都市建設市民の誓い

わたしたち宜野湾市民は健康都市宣言の本旨を高揚し、明るく、美しく、豊かな

住みよい健康都市を建設するために、次の事項の実現に努力することを誓います。

推進目標

1　丈夫な体を育てましょう。

1　りっぱな市民になりましょう。

1　交通道徳を高めましょう。

1　暮しの向上をはかりましょう。

1　明るく美しいまちにしましょう。

はじめに

本市教育委員会においては、「第二次宜野湾市教育振興基本計画（令和3～7年度まで）」を策定し、基本理念に「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を掲げ、3つの基本方向「生きる力を育む“ひとづくり”」、「学校に関わる人たちが活動をとおしてつながる“学校づくり”」及び「地域が学びをとおしてつながる“まちづくり”」の実現を図っております。このため、各施策を総合的かつ横断的に推進し、進捗状況を年度ごとに点検・評価し、議会への報告、市民への公表とともに、その結果を次の施策の展開に反映させてまいりました。

学校教育においては、コミュニティ・スクールの運営を通して地域と学校の連携協働体制の構築を図り、自主創造を活かした特色ある教育活動を推進し、地域とともにある学校づくりを目指してまいります。

また、沖縄県の施策「沖縄 DX」の取り組みを受け、「GIGA スクール構想」のさらなる推進を図り、児童生徒 1 人 1 台端末を日常的に活用するとともに「学びの保障」に努めております。

さらに、本市教育の一層の向上を目的として、令和6年6月1日に第2期宜野湾市学校業務改善アクションプランを策定しました。このプランでは、「働きやすい」職場環境づくりや「働きがい」のある教育環境づくりを目指し、労働安全衛生管理体制の整備による「職場環境整備の充実」、教育 DX の推進による「教育環境整備の充実」、「部活動の適正化」などに取り組みます。保護者や地域の皆様のご理解をいただきながら、すべての教職員によりそう働き方改革を進めることで、本市の学校教育の質をさらに高め、教育内容の一層の充実・発展を図ってまいります。

学校施設については、令和3年度に策定された「宜野湾市教育施設等長寿命化計画」に基づき、安心・安全で快適な教育環境の整備を目的に、施設及び設備の長寿命化を図ってまいります。

各種社会教育事業などの生涯学習活動については、多様な学習機会の提供、学校教育等との連携の拡充、市民との協働の推進、社会教育関係団体の支援や文化や芸術に触れる機会の創出等、充実を図っております。

教育の力は、地域社会の発展に大きな影響力を持っています。今後も、教育の「普遍性、時代性、地域性」の三要素の教育的環境の優位性を活かし、教育行政の充実に努めてまいります。

「宜野湾市の教育」は、教育行政、学校教育、教育施設等の全 11 項目から構成されております。是非、ご高覧いただき、本市教育行政の推進にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和 7年 9月

宜野湾市教育委員会

教 育 長　伊 波　保勝

目 次

はじめに
宜野湾市の位置と地勢・・・・・・・- 1 -
宜野湾市の沿革・・・・・・・・・・・- 1 -

Ⅰ　教育行政
１．教育行政・・・・・・・・・・・・- 2 -
２．教育財政・・・・・・・・・・　- 21 -
３．育英会事業・・・・・・・・・　- 23 -
４．ぎのわん教育の日・・・・・・　- 25 -

Ⅱ　学校教育
１．宜野湾市の学校教育・・・・　- 26 -
２．学校教育状況・・・・・・・・　- 28 -

Ⅲ　教育施設
１．基本方針・・・・・・・・・・　- 36 -
２．施設配置図・・・・・・・・・　- 36 -
３．学校教育施設・・・・・・・・　- 37 -
４．社会教育施設・・・・・・・・　- 38 -
５．学校敷地の状況・・・・・・・　- 39 -
６．学校校舎の必要面積と保有状況
・・・・・・・・・・・・・・・・　- 40 -
７．宜野湾市立学校施設の耐震化状
況集計表・・・・・・・・・・　- 41 -

Ⅳ　学校給食
１．基本方針・・・・・・・・・・　- 42 -
２．重点目標・・・・・・・・・・　- 42 -
３．機構図・・・・・・・・・・・　- 43 -
４．学校給食運営図・・・・・・・　- 43 -
５．食育への取り組み・・・・・・　- 44 -
６．地産地消の取り組み・・・・　- 45 -
７．学校給食における食物アレルギー
への取り組み・・・・・・・・　- 45 -
８．学校給食の栄養量・・・・・・　- 46 -

Ⅴ　はごろも学習センター
１．基本方針・・・・・・・・・・・・- 47 -
２．重点施策・・・・・・・・・・・・- 47 -
３．本年度の取り組み・・・・・・・・- 48 -
４．令和７年度研修係・管理係年間事業
計画・・・・・・・・・・・・・・・- 49 -
５．令和７年度宜野湾市教育情報化推進
計画構想図・・・・・・・・・・・- 50 -
６．適応指導教室「若葉教室」の概要 - 51 -
７．令和７年度 適応指導教室「若葉教
室」・・・・・・・・・・・・・・・- 53 -
８．令和７年度支援係年間事業計画・ - 54 -
９．令和６年度支援係年間事業実績・ - 57 -

Ⅵ　社会教育
１．基本方針・・・・・・・・・・・・- 60 -
２．重点施策・・・・・・・・・・・・- 60 -
３．令和６年度主な事業実績・・・・- 60 -
４．令和７年度社会教育関連の主な事業
計画・・・・・・・・・・・・・・・- 63 -

Ⅶ　文化振興
１．基本方針（文化）・・・・・・・・- 64 -
２．令和６年度文化事業の実施・・・- 64 -
３．令和６年度文化振興講座・・・・- 65 -
４．令和６年度文化事業共済・後援等 - 65 -
５．令和６年度宜野湾市民会館管理運営
状況・・・・・・・・・・・・・・・- 66 -
６．令和７年度事業計画（予定）・・- 67 -

Ⅷ　中央公民館
１．基本方針・・・・・・・・・・・・- 68 -
２．運営方針・・・・・・・・・・・・- 68 -
３．取組事項・・・・・・・・・・・・- 68 -
４．令和６年度主な事業実績・・・・- 69 -
５．令和７年度事業計画・・・・・・・- 75 -

Ⅸ　市民図書館
１．基本方針・・・・・・・・・・　- 77 -
２．重点施策・・・・・・・・・・　- 77 -
３．管理・運営状況・・・・・・・　- 77 -
４．利用者実績と目標・・・・・　- 78 -
５．資料の整備状況・・・・・・・　- 79 -
６．移動図書館活動状況・・・・　- 79 -
７．事業計画と活動実績・・・・　- 82 -

Ⅹ　文化事業
１．基本方針・・・・・・・・・・　- 85 -
２．文化財の保護・活用・・・・　- 86 -
３．市史の編集・・・・・・・・・　- 96 -

Ⅺ　市立博物館
１．基本方針・・・・・・・・・・　- 100 -
２．重点目標・・・・・・・・・・　- 100 -
３．施設の内容・・・・・・・・・　- 100 -
４．開館日・休館日・・・・・・・　- 101 -
５．観覧料・・・・・・・・・・・　- 101 -
６．博物館の収蔵資料・・・・・　- 101 -
７．令和７年度年間事業計画・・　- 103 -
８．令和６年度の活動実績・・・　- 104 -
９．宜野湾市立博物館の運営に関する基本的方針・・・・・・・・　- 109-

資料
１．学校長名等一覧・・・・・・・・- 112 -
２．学校医・学校歯科医・学校薬剤師一覧・・・・・・・・・・・・・- 113 -
３．宜野湾市教育支援委員会委員・- 114 -
４．宜野湾市学校給食センター運営委員会委員・・・・・・・・・・・- 115 -
５．宜野湾市立中央公民館運営審議会委員・・・・・・・・・・・・・- 115 -
６．宜野湾市社会教育委員・・・・- 116 -
７．宜野湾市民図書館協議会委員・- 116 -
８．宜野湾市文化財保護審議会委員 - 116 -
９．宜野湾市立博物館協議会委員・　- 117 -
10．宜野湾市史編集委員会委員・・- 117-
11．宜野湾市いじめ問題専門委員会委員・・・・・・・・・・・・・・- 117-
12．はごろも学習センター運営委員会委員・・・・・・・・・・・・・- 118-
13．第二次宜野湾市教育大綱・・・- 119 -

宜野湾市の位置と地勢

本市は、沖縄本島の中南部西海岸・東シナ海に面した位置にあり、北に北谷町、東に中城村、北東に北中城村、南に浦添市、南東に西原町と接している。県庁所在地の那覇市より北に 12.4km、沖縄市より南に6km の地点にあり、市内をドーナツ状に国道 58 号線、国道 330 号線が南北に、県道宜野湾北中城線、県道 34 号線が東西に走り、さらには沖縄自動車道の北中城インターチェンジや西原インターチェンジへもつながる交通上の重要な要所に位置する。

本市の総面積は 19.80k㎡で、東西 6.1km、南北 5.3km の範囲である。地勢は、海岸線の出入りが比較的少なく、珊瑚礁が発達している。地形はおおむね平坦だが、海岸線に対して国道 58 号線以東は台地となっている。市域の中央部と北側部分は米軍基地となっており、その面積は全市域の約 29.4%を占めている。また、河川は宇地泊川、浦添市界に牧港川、北谷町界に普天間川がある。

気候は亜熱帯性で四季を通じて温暖である。春から夏にかけて雨量が多く、梅雨明けとともに長い夏が続く。また、夏から秋にかけて熱帯性低気圧の進路となり台風の襲来が多くなる。

宜野湾市の沿革

本市の母体である宜野湾間切は、1671（康熙 10）年に浦添間切から我如古、宜野湾、神山、嘉数、謝名具志川（大山）、大謝名、宇地泊、喜友名、新城、伊佐の 10 ヵ村、中城間切から前普天間（野嵩）、寺普天間（普天間）そして北谷間切から安仁屋をそれぞれ分割し、大川（真志喜）を新設し 14 ヵ村をもって設立された。

1879（明治 12）年の廃藩置県後、明治新政府の方針により、琉球は沖縄県となった。沖縄県庁の支庁として中頭郡役所が普天間に新設され、つづいて郡教育部会事務所、県立農事試験場等の官公署が設立されるなど本島中部の政治、経済、教育の中心地として活気を呈していた。

1881（明治 14）年５月、中頭郡区初の公立小学校として、宜野湾間切普天間村に中頭小学校が開校した。中頭小学校は中頭郡区 11 の間切から生徒を募集し、普天満山神宮寺を借りて開校した。これが宜野湾学校教育の始まりである。

第二次世界大戦においては、本市も壊滅的な戦災を被ったが、野嵩地域が奇跡的に焼失を免れて、戦闘地域住民の収容所となり、そのため他の市町村に先んじて戦後処理作業が行われた。

その後、市内の普天間を中心に都市化が進展し、1962（昭和 37）年 7 月 1 日に市制が施行され、新生「宜野湾市」が誕生した。

市制施行後もなお、米軍基地が市の中央部に位置するため市街地は国・県道沿いにドーナツ状に発展し、特異な形態になっている。近年、那覇市の外延的な拡大に伴い、市街化が進展しつつある。さらに、西普天間の返還、琉球大学医学部、沖縄国際大学が立地し、沖縄コンベンションセンターが整備されるなど、県内の高次都市機能の一部を担う重要な地域となりつつある。